

M-1：私立大学の研究力強化

私大の研究力強化への新たな取組Ⅳ

8月30日（水） 13:50-15:20 会場F（4階）

URAシステムの導入が多くの大学で進む中、大学の研究力を強化するため、研究者が研究活動に専念できる研究推進支援体制の整備とともに、URAに新たな役割が求められつつある。しかし、今日の全国的に見た私立大学においては、まだまだURA体制が完全に定着したとは言えない。そこで、2014年に開催して以降4回目となる今回の私大セッションは、私立大学における独自の研究推進体制、URA組織、その活動事例などを紹介し、多くの私大のURA活動の推進の一助としたい。

オーガナイザー／司会者



中澤 健史：関西大学 学長室（研究支援・社会連携グループ）
URA

関西大学大学院文学研究科博士課程単位修得済退学。修士（文学）。研究者時代は人文地理学を専攻し、漁村でフィールドワークに明け暮れる一方、異分野のICT関係の研究所に在籍し、大型競争資金への申請等に携わってきた関係で、2014年より現職に。文理を問わず多種多様な競争的資金への申請を支援するとともに、研究者情報データベースである「学術情報システム」の管理も行っています。

講演者



松浦 洋司：岡山理科大学 工学部／研究・社会連携機構
教授／副機構長

徳島大学大学院工学研究科博士課程修了。工学(博士)。
三浦工業(株)勤務後、1995年より岡山理科大学勤務。知能機械工学科において材料強度分野の研究の傍ら、就業力育成補助金事業に携わる。2016年より研究・社会連携機構において研究支援体制の整備に微力ながらお手伝いさせていただいている。



菅原 剛彦：順天堂大学 研究戦略推進センター URA

筑波大学大学院医学研究科修了(医学博士)。ポスドク時代はゲノム・免疫の基礎医学研究に没頭。その後、ファンディング機関で調査員、科学コミュニケーション事業に携わりURAに。現在は、主に競争的資金の申請支援、異分野連携、研究成果アウトリーチを担当。



桑田 晴香：東海大学 研究推進部 研究計画課

東海大学海洋学部卒業。2009年学校法人東海大学に職員として採用され、清水研究支援課(現清水事務課)に配属。研究費管理執行業務のほか、研究広報業務を行なった後、(独)日本学術振興会へ出向。科学研究費助成事業の審査・配分等の業務に従事。その後、現所属において、学内研究活性化等を目指し、総合研究機構施策の管理・運営業務に従事するとともに、科研費の採択件数向上を目指し、プロジェクトチームで活動しています。



舘 正一：関西大学 学長室(研究支援・社会連携グループ) URA

学生時代よりデザイン業を始め、その後、大手広告代理店にて企業の広告・宣伝に従事。近年は地域活性のためのビジネスモデル作りや、大阪大学ではアンドロイドを活用した教育啓蒙などの活動にたずさわってきました。本学ではいままでの経験を活かし、「関西大学の先生って何を研究しているのか?」「その研究は社会の何に役に立つのか?」を整理し、わかりやすく発信するのが私の仕事です。



角谷 賢二：関西大学 学長室(研究支援・社会連携グループ)
シニアURA

関西学院大学理学研究科(化学)卒、理学博士。元日立マクセル(株)取締役CTO。
大手企業で研究開発、CTOを経験してきました。それを武器に関西大学におけるURAを大きく発展させたいと思っています。URA使命は研究支援だけでなく、新しい価値を創造することだと思っています。また、Quick Responseをモットーとしています。趣味は絵画の鑑賞と収集です。